NPO 法人　せやふれあいの庭　郡山市川内村仮設住宅訪問報告（2016/9/8-9）

藤木先生熱演風景

若宮前仮設の風景～楽器と運動会と・・

大竹師と西小野伝道師↑

那須高原教会～快晴の朝

ハウス・オブ・レストでのお弁当作り（五目寿司）

近藤牧師夫妻と共にパチリ

丘の上チャペル大田尾牧師夫妻

南一丁目仮設の風景～笑顔と運動会と

今回の仮設訪問は・・・

この写真で見られる満面の笑みとは裏腹に仮設の空気感は、かつてない重たいものでした。

2017年3月の仮設閉鎖にむけて、それぞれが決断する時期がやってきています。
川内村へ帰って家族と住む方や、郡山市内に家を建てて家族と暮らする方もおられます。
迫りくる現実が仮設の空気感を重くしています。

南一丁目の超高齢者仮設での食事の際にスタッフに切々と話された方がおられました。
「川内村の家を直す資金力もない。朽ちていく家のために税金を払い、光熱費の基本料金を払っている。仮設の家賃は無料だが光熱費は自払いで、両方にお金をとられている。
仮設は病院が近くていいが、やはりタクシーを使わなくては行けない。1回に2,000円位かかり、1か月に3ー4回は行く。こんな生活をしていてこれから閉鎖に向けて自分はどうなっていくのだろうか？と考えると夜もあまり眠ることができない。 不安で不安でたまらない。 ここで一時笑って楽しんでも、またすぐ不安が襲ってくる。」

また私たちが最初に訪問した時よりも、はるかに身体的機能は落ちておる方も増えてきました。藤木先生ご夫妻の大ファンの方は以前は椅子に普通に座っておられましたが、今は座布団を積み上げて足の下に置かないと椅子に座るのも一苦労になりました。足のむくみがひどく、指ですねを押すと2センチくらいくぼみ、なかなか元に戻りません。膝に水がたまり「痛くて痛くてしょうがない」そうです。病院へ行くとその時は良いがまたすぐ、痛くなるそうで足をさすっておられました。別れ際に「必ずまた来てね。待っているから。」と言って帰って行かれました。スタッフの方に伺うと、「ここでしか笑ったりすることもないからね。」ということでした。

この仮設に住んでおられる方々に厳しい将来がまもなくやってくることでしょう。
この現実を目の当たりに見させられている私たちは彼らの生活が守られていくようにと祈らずにはいられません。

いつも皆様の尊い支援をありがとうございます。心から感謝いたします。
今回の支援品は、『洗濯洗剤、食器用洗剤、ミニラップ』のセットを　100セット、
お弁当（配食）を　７０食　提供させて頂きましたので、ご報告致します。

今後の導きのためにも是非お祈りください。
皆様方に祝福が豊かにありますように。